

子どもたちの輝く未来のために！

教育センターニュース

ミネルバ

124号

佐賀県教育センター <http://www.saga-ed.jp>

〒840-0214 佐賀県佐賀市大和町大字川上

TEL 0952-62-5211(代) FAX 0952-62-6404

平成 24 年 7 月 20 日発行

掲載記事

- 副所長あいさつ
- 特集
プロジェクト研究
個別実践研究
- 教育センター 知つ得情報



「情報発信基地としての教育センターをめざして」

副所長 江頭 一寛

平成 24 年度が始まり、各学校では全教職員の方が一丸となり、信頼される学校、特色ある学校づくりに邁進してこられたことと存じます。一方、児童生徒の安全管理に伴う通学路点検や防災教育等でも、いろいろとご苦労されていることだと思います。しかし、このことは、様々なことが変化し続ける今の社会情勢の中にあって、学校教育へ期待され続けていることの表れだとも言えるのではないでしょうか。教育センターにおいても所員一同、学校現場の先生方に必要とされるよう、各種業務に取り組んでいるところです。下に、その一端を紹介いたします。

◎ 「かわら版ミネルバ」の発行

所報ミネルバはこれまで 4, 7, 10, 1 月の各月 21 日の年 4 回の発行でしたが、少しでも先生方に旬な情報を届けしようと、6, 9, 12, 3 月を中心に随時、小・中・高毎に「かわら版」(A4) を発行することにしました。既に、6 月 11 日に創刊号を発行しております。今後は、県内の各種教育情報もご提供いただければ掲載し、情報の共有化を図っていきたいと考えています。

◎ 理科授業改善サポートチームの発足

新学習指導要領では、ご存じの通り理数教育の充実があげられています。今年度、県内で小中学校、併せて 11 名の研究委員の方を委嘱し理科という教科の特質を大切にした授業改善、ひいては学力向上に取り組む研究組織を発足させました。2, 3 学期は現 5 教育事務所管内全てで公開授業研究会を開催します。多数の先生方の参加をお待ちしています。

◎ 高等学校における特別支援教育の推進研究

特別支援教育については、学校教育法等の改正を受け、新たな制度として 5 年が経ちました。その間、まず小学校から啓発と推進が図られ、次に中学校へとその広がりを見せてきています。現在、高等学校でも特別支援教育コーディネーターを中心に体制作りが進んでいることと思います。そこで「学習支援」にテーマをおいた研究を通じ、高等学校での特別支援教育推進の一助となるようにします。ご期待ください。

この他にも、今年度も小国、小算、中国、中数、ICT 利活用教育（義務制用・高等学校用）等々において、研究委員の方を委嘱し先生方のお役に立つ研究を行い、情報を発信していく基地として取り組んで参る所存です。是非、この機会に、佐賀県教育センターのホームページをお開きいただき、たくさんの宝物を得ていただきたいと思っている次第です。また、先生方のご指摘、ご要望等、機会ある毎にこれからもお聞かせいただければ幸いです。

プロジェクト研究への取り組み



教育センターでは、県の教育課題や学習状況調査の分析等から見えてきた課題について、所員と現場の先生方でプロジェクトチームを組み、協力し合いながら課題に関する調査・分析を行ったり、検証授業など実践的な研究に取り組んだりします。このことにより、具体的な方策・改善策等を提案し、研究成果は、ホームページで発信とともに、研修講座、学校等支援、教育実践交流会等でも公開します。

今年は、昨年度からの更なる深化を求めて、小学校国語科、小学校算数科、中学校国語科、中学校数学科の研究に取り組みます。また、高等学校における特別支援教育について2か年計画で研究に取り組みます。ホームページでお確かめください。特に、国語・算数・数学の研究成果については、年間3回（8・12・3月）の発信を行い、更に充実させていきます。

- ① 佐賀県教育センターで検索 → ② 「研究・調査」の「授業に役立つ実践研究」をクリック
→ ③ プロジェクト研究のページが表示されるので、興味がある教科をご覧ください。

すぐ使える資料がいっぱい！

是非、ホームページを開いてください。

8月にはホームページの内容を更新します。乞う、ご期待！！

佐賀県教育センター

研究・調査

- 授業に役立つ実践研究
- 学習プリント集(国・算・数)
- 学習評価の進め方(手引書)
- 課題授業事例

相談・支援

- 教育相談
- 指導指標教室「じいの木」
- 教育評議会
- 所員による研究懇親会
- 国語
- 社会
- 算数

佐賀県教育センター

授業に役立つ実践研究

必見！

入り口はこちら

ここからも
プロジェクト
研究のページ
に入れます。

学習評価の進め方（手引き）

新学習指導要領のねらいを実現するために
は、その趣旨を踏まえた学習評価の考え方を
理解し、妥当性、信頼性のある学習評価を行
うことが大切です。教育センターでは、小・
中学校の各教科・領域の学習評価の進め方（手
引き）をホームページで発信しています。具
体的な学習評価の事例やよくある質問Q & A
なども掲載しています。是非お役立てくださ
い。右は小学校国語の一部です。

☆【国語への関心・意欲・態度】はいつどの場面で評価するの？

この観点は、児童が学習内容に興味・関心をもち、話したり聞いたり、書いたり読んだり、読書をしたりすることに自ら取り組もうとする意欲や態度を身に付けているかどうかといった学習状況を評価するものです。

単に、挙手や発言の回数、授業態度の善し悪しや忘れ物の有無などだけで見るのはなく、その授業の指導目標や学習活動を踏まえて、学習の対象に対しての関心・意欲・態度を評価しましょう。この観点は、学期を通して適切な頻度で多面的に評価することが大切です。



個別実践研究では…

個別実践研究では、県の教育課題や教育現場が抱える課題などについて、具体的な手立てを講じた検証授業、授業に役立つ教材の開発などの実践的な研究に取り組み、改善策等を提案します。今年度は下の4つの教科・領域の研究を進めており、研究成果は、教育センターのホームページで3月に発信します。

小学校図画工作、小学校音楽、中学校技術・家庭（家庭分野）、中学校道徳

〈 小学校図画工作 〉

テーマ つくりだす喜びを味わう児童を育てる図画工作科学習の指導法研究

— 共同してつくりだすよさを感じ取れる題材における友達との交流活動を通して —

児童がつくりだす喜びを味わうのは、発想や構想の能力、創造的な技能等の力が十分發揮され、思いどおりに表現できたときです。児童のもてる力が十分發揮できるように、共同してつくりだすよさを感じ取れる題材を開発し、制作過程に、形や色、イメージなどの【共通事項】を視点とした交流活動を取り入れます。友達と交流することで、児童は、様々な発想や表し方などがあることに気付き、表現や鑑賞を高め合うことができると考え、次のような提案をしたいと思っています。



★共同してつくりだすよさを感じ取れる題材の開発

★授業の指導案、ワークシート、教材の提案

〈 小学校音楽 〉

テーマ 聴き取り感じ取ったことを基に、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりすることのできる児童の育成 — 【共通事項】をよりどころとして表現と鑑賞の関連を図った指導法の工夫を通して —

聞き取り感じ取ったことを基に、思いや意図をもって表現したり、味わって聴いたりすることのできる児童を育てるために、【共通事項】をよりどころとして表現（歌唱・器楽・音楽づくり）と鑑賞とを授業の中でどのように関わらせていくべきのかについて研究し、次のような提案をしたいと思っています。



★表現領域の学習活動と鑑賞領域の学習活動を関連付けた授業展開例の提案

★【共通事項】をよりどころとして、児童が聞き取り感じ取ったことを生かして効果的に学習を進めるための、学習カード、ワークシート、学習形態や発問の仕方についての提案

〈 中学校技術・家庭（家庭分野） 〉

テーマ 生活をよりよくしようとする生徒を育てる家庭分野の学習の指導方法の工夫

— 住生活の学習における問題解決的な学習を通して —

学習指導要領で、一層の充実が求められている問題解決的な学習の一連の学習過程において、自らが課題をもって生活をよりよくしようとする生徒の育成を目指し、話し合い活動を設定して、生徒の考えの変容や新たな課題の発見について研究を進め、次のような提案をしたいと思っています。



★問題解決的な学習の取り入れ方の提案

★問題解決的な学習を生かした住生活の授業の提案

〈 中学校道徳 〉

テーマ 夢や目標の実現に向けて、努力することの大切さを実感させる道徳の時間の研究

— 人の生き方から学び、自己の生き方を探る授業づくりを通して —

本研究では、生きる指針となる人物の生き方から、人間のもつ可能性や素晴らしさ、弱さやそれを克服する強さを学び、その学びを自分の生き方に反映させることを目指した道徳の時間について研究を進め、次のような提案をしたいと思っています。



★人物の教材化や資料の活用法

★人の生き方からの学びを自分の生き方に反映させるための手立てを図った授業の提案

知つ得情報!!



◎教育センターからのお知らせを、掲載しています。

◎「ミネルバ」はホームページでご覧いただけます。

教育論文・ICT利活用実践研究を募集します。



教育センターでは、今年度も教育論文・ICT利活用実践研究を募集しています。昨年度は、全部で24編の応募がありました。教育活動の活性化を図るため、個人やグループ、校内研究で取り組んだ貴重な実践を応募してください。

○ 募集内容

「 教育論文 」

各教科領域、学校教育全般のテーマの中から、今日求められている教育課題を追求した研究や実践
校内研究の部 ……………… 学校全体で取り組んできた教育実践
個人(グループ)研究の部 … 個人やグループで取り組んできた教育実践



「 ICT利活用実践研究 」

児童生徒への日々の指導において、ICTを効果的に活用したもの
校務や各種事務処理において、ICTを活用し、業務の機能や利便性・効率を向上させたもの

○ 応募期間及び提出先

市町立の幼稚園、小・中学校 …… 10月31日(水)～ 11月9日(金) 各市町教育委員会へ
県立学校 ……………… 11月14日(水)～ 11月22日(木) 教育センターへ

先生方の研修のお手伝いをします。



- 各学校の校内研修・校内研究へ出向きます。
- お電話やFAX・メールでのお問い合わせも待っています。

申し込み方法は佐賀県教育センターホームページをご覧ください。

まずはお電話で、お気軽に教育課程支援担当まで、お問い合わせください。

昨年度の実績

| | |
|------------------|--------|
| 学校等へ出向いての支援 | 年間510件 |
| 教育センターへ来られた方への支援 | 年間 64件 |

返却方法が便利になりました。



◆図書資料室の書籍の返却方法

- 利用時間内に直接返却する。
- センターを訪れる人に預けて返却してもらう。
- 郵送便にて返却する。

(佐賀市内の学校を除く)

借りる際、郵送便用封筒と一緒に持ち帰る。
返す時はその封筒に入れて、各市町教育委員会
の中にある教育事務所行きの棚に入れる。(入
れてもらう。)

※月1回、センター所員が各教育事務所にて受
け取り、返却手続きをします。

※夏季休業中までとし、その後は再度広報致しま
す。